

編集後記

●福富節男さんの、運動体のニュースに書いた細かい文章を中心に集めたパンフレットがやっと、できあがりつつある。私と有馬保彦と松井隆志の、吉川勇一パンフを編集したトリオの作業である。長い自分の闘病中に運動の中で交流した人が次々と亡くなっていく。自分も、そういう年になったわけである。何十年も、明日の運動をどうする、とひたすら考えて今日を生きてきたが、必然的にもはや過去をふりかえる時間が私の中で増えてきている。すると、今の問題はかつて入り口だけ対象化したが、放りだしてしまった問題であることが多いことを発見する。過去に向かつて前進する。この方法があたりまえなのかもしれない。

(天野恵一)



◆編集委員

阿部めぐみ、天野恵一、有馬保彦(本号担当)、岡本和之、北原博子、杉内蘭子、高橋武智、西田和子、細井明美(次号担当)、本野義雄、野澤信一、諸橋泰樹、吉田和雄

●市民意見広告運動のご案内発送には宅配便業者のメール便を使っていますが、最近「お宅が建て替え中で配達できませんでした」という理由で戻ってきてしまう例が増えていきます。メール便の場合、郵便局に転居届を出していても業者の配送情報には反映されません。建て替えのような短期のご転居の場合でも、不配にならないように事務局までご一報ください。また、その他の理由で不配になった場合に解決できるように、ご連絡時には固定電話番号だけでなく携帯電話番号もそえていただけると助かります。よろしく願います。

(岡本和之)

●厚生労働省の毎月勤労統計調査の不正・偽装問題は、調査結果の数値に大きな影響を及ぼし、雇用保険や労災保険の給付などに膨大な過少給付を生じさせた。この不正問題を検証する特別監察委員会は、当時の加藤勝信厚労相を調査の対象とせず、「組織的な隠ぺいはなかった」と主張するなど、到底国民に納得できない説明となった。官僚にだけ

責任を押し付けるものであってはならないし、前厚労相の国会招致も含めて徹底的な審議が必要だ。

(西田和子)

●辺野古住民の基地建設推進派は、本音は海を汚されたくないが国策だから仕方がないという。NHKのドキュメンタリーでの推進派の意見だ。推進派たちはより良い条件を求めて交渉し続けているが、国側は期待を持たせつつ個別補償を明らかにすることがない。しかしここへ来て辺野古新基地の地盤の弱さが指摘され始めている。政府もそれを認めている。では工費2兆5500億円もかけての基地建設とは一体何なのだろうか？ 辺野古工事の受注業者7割に防衛省OBが天下っているという。土建屋に利益をもたらすための政策としか思えない。

(細井明美、次号担当)

●今号の「映画の紹介」はお休みです。次号を楽しみにしてください。読者の皆様から誌面づくりに対してご批判、ご要望が寄せられております。編集会議・事務局会議で討議し、改めてご報告いたします。今年、「三一朝鮮独立運動100周年」で、南北共催での式典が予定されています。日本のマスコミは日本が朝鮮を植民地にしたこと、そのことへの真摯な謝罪がチャンとなされていないこと、在日へのヘイトスピーチ、不当な差別である朝鮮学校授業料無償化拒否は論ぜず、徴用工問題等について一方的に韓国を批判する論調が多くみられます。私たちは歴史を問い続けることが必要です。

(有馬保彦、今号担当)